



2022年2月 第20巻 第2号

かく語りき—聖人の言葉

人生の秘訣は恐れを持たないこと。自分がどうなろうと恐れず、誰にも頼らない。

あらゆる助けを拒否した瞬間に初めて自由を手にする。

…スワミー・ヴィヴェーカーナンダ

バガヴァッド・ギーターの一部だけ読む、ガンジス川の水を一滴だけ飲む、もしくはたった一度だけ主を礼拝する、そうするだけで死の王に対するすべての恐れは、永遠に止むだろう。

…シュリー・シャンカラチャーリア

今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・お知らせ
- ・2022年3月、4月の生誕日
- ・2022年2月逗子例会
スワミー・ヴィヴェーカーナンダ
生誕祝賀会 午後の講義
「スワミー・ヴィヴェーカーナンダ

の真理への熱意」

スワミー・メーダサーナンダ

- ・忘れられない物語
- ・今月の思想

～お知らせ～

コロナウイルスの影響のため、引き続きライブストリーミングやズームなどの配信を中心に、皆様にお届けいたします。プログラムに直接参加なさりたい方はご連絡ください。

email : info@vedanta.jp

ズームに関するお問い合わせ先 :
zoom.nvk@gmail.com

2022年3月、4月の生誕日

シュリー・ラーマクリシュナ
3月 4日 (金)

シュリー・ガウラニング

(チャイタンニヤ) 3月18日 (金)

スワミー・ヨーガナンダ
3月21日 (月)

ヴィッシュダ・シッダーンタ
(Vishuddha Siddhanta) 暦では、2022年4月に生誕日はありません。

・日本ヴェーダーンタ協会の行事予定はホームページをご確認ください。

<https://www.vedantajp.com/>

2022年2月返子例会

スワミー・ヴィヴェーカーナンダ

生誕祝賀会 午後の講義

「スワミー・ヴィヴェーカーナンダの真理への熱意」

スワミー・メーダサーナンダ



シュリー・クリシュナ、お釈迦様、主イエス、そしてシュリー・ラーマクリシュナは神の化身とみなされています。シュリー・クリシュナの生誕時と子供時代には数多くの驚くような出来事が起こりましたが、お釈迦様、主イエス、シュリー・ラーマクリシュナの生誕と幼少期にそのような話はあまりありません。お釈迦様、主イエス、シュリー・ラーマクリシュナは神の化身なのに、なぜ彼らの幼少期には神性を示すものがないのでしょうか？ 彼らは少し特別なところはあったにせよ、同じような環境で生まれた普通の子供と同じようでした。したがって、一般

的な子供たちと多少の違いはあるものの、神の化身と分かるほどではなかったのです。彼らが大人になって初めて、その生涯が世間一般の人々の生活と違っていることが明らかになりました。

スワミー・ヴィヴェーカーナンダは、天上界の七聖賢(サプタ・リシ)の一人とみなされています。サプタ・リシは神聖さにおいて、ブラフマンの知識を得た人、さらには神々にも優るのです。七聖賢の霊的性質は、非常に特別な部類に属しています。スワミー・ヴィヴェーカーナンダはこの七聖賢の一人の生まれ変わりなのに、なぜ彼は若い頃、神は本当に存在するかどうか、ということに確信が持てなかったのでしょうか？

プラクリティの法則

言うまでもなく、スワミー・ヴィヴェーカーナンダ(スワミージー)は、スポーツ、歌、料理、語学など、各方面に秀でていました。七聖賢のみなさんが料理やスポーツに秀でているかどうか、私には分かりませんが、リシたちの霊性のレベルは非常に高いです。しかし私の質問は、スワミージーは七聖賢の一人なのに、なぜ神の存在を尋ねるために一般的な宗教の指導者たちのもとへ行かなければならなかったのか、ということです。シュリー・ラーマクリシュナが、「ああ、神様は本

当におられるのだ。私は神様をはっきりと見る。お前に見せることもできるのだよ」と言った時、スワミー・ヴィヴェーカーナンダはそのことを当惑しながらも信じました。しかしシュリー・ラーマクリシュナが自分は神の化身であると言明したとき、ヴィヴェーカーナンダはこの考えを受け入れようとしませんでした。シュリー・ラーマクリシュナはあるヴィジョンを得ました。それは、天界で赤ん坊（シュリー・ラーマクリシュナ）が七聖賢の一人の首を優しく抱きしめて、「私は地上に降りるよ、お前も一緒に来てくれるね」と誘っているヴィジョンです。[一] その聖賢の化身がスワミージーなのに、シュリー・ラーマクリシュナという最高の化身を納得しないままでいられるでしょうか。スワミージーは、地上で生まれた後、自分の本当の霊性の高さを全く覚えていないようでした。そのようなことは可能でしょうか？ 音楽や数学の分野には、[前世の能力を發揮する] 神童の例がたくさんあります。それなのに、聖賢が生誕後に霊性の高さを全く覚えていなかった理由は何でしょう？

[ここでメーダサーナンダジーは参加者の意見を募られた] ひとつの意見が出ました。ヴィヴェーカーナンダは何も覚えていなかったからこそ、私たちのレベルで私たちを同じようにみた。そして彼が大人になるとともに、成長

し、教えた、という意見です。もう一つの意見は、出生時には、コンピューターに新しいディスクを入れると、全てのメモリーがリセットされるように、リセットされる、という意見です。

私の答えは、七聖賢の一人としての彼は、プラクリティ（マーヤー）を超越していました。ですので、プラクリティが彼をコントロールするのではなく、彼がプラクリティをコントロールしていました。しかし、彼が人間の姿となった時に、彼はプラクリティの制御下に入りました。そしてプラクリティが彼に全てを忘れさせたので、彼の深い霊的サムスカーラが休眠状態として存在していても、ゼロから始めなければならなかったのです。シュリー・ラーマクリシュナが言ったように、「神の化身はプラクリティの助けがあって初めて可能となる」のです。純粋なブラフマンにプラクリティはありません。しかし、ブラフマンが人間の形で生まれると、プラクリティの助けが必要になります。また、人間の姿になった時点で、プラクリティの法則の対象になるのです。まとめると、ここでは三つのことが言えます。まず、プラクリティの助けが必要であること。次に、出生時に人はプラクリティの法則の対象になること。そして三つ目に、プラクリティが以前の生での霊性の高さを忘れさせる、ということです。

例えば、生まれたての赤ちゃんが突然五十歳の人のように成熟しているわけにはいきませんね。

身体、精神、霊性の成長の生来のサイクルは、自然の法則に従っているのです。誰もがゆっくりと発達し、その後成熟期に入ります。サムスカーラは残っていても、プラクリティが前世の記憶を消します。

ですから、霊的な存在が人間の姿になる時も、その規則に従わねばならないのです。

シュリー・ラーマクリシュナの教えの普及

もしスワミーが早い段階で自分がどの領域から来たのか分かっていたなら、ためらうことなくそこへ戻ったでしょう。そうなれば、この世の苦しみを取り除き、平安、喜び、智慧、解脱への道を人々に示す、というシュリー・ラーマクリシュナの化身としての使命がすべて失敗に終わってしまいます。どうして？ なぜなら、シュリー・ラーマクリシュナはご自分のメッセージを伝える一番の道具として、スワミーを選んだからです。シュリー・ラーマクリシュナの身体は長く厳しい霊的実践の影響で、とてももろくなっていたので、西洋に行くことはできませんでした。彼は近くに行くときでさえ、籠を呼んだほどです。また、英語を話すこともできませんでした。

シュリー・ラーマクリシュナがご自分のメッセージを普及させるためにはスワミー・ヴィヴェーカーナンダが必要でした。もしスワミーが若いうちから自分の本性を理解し、このマヤーの領域の泥沼を思ったなら、彼はすぐにでも肉体を放棄し、元の領域に戻ったでしょう！

主イエスは言いました。「わたしも言っておく。あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる」シュリー・ラーマクリシュナも主イエスと同じ考えでスワミーを育成しました。スワミーが自分の正体を思い出せなかったのは、果たすべき使命があったからです。また、その使命を果たしたとき、彼はもとの住処に帰ることになっていました。七聖賢の一人というスワミーの正体の記憶のドアのカギをかけ、そのカギをシュリー・ラーマクリシュナが預かっていたようなものです。スワミーが生涯を閉じる少し前にある信者が尋ねました。「自分が誰なのか、もうご存じなのですか？」[二] スワミーは「はい！」と答えたきりでした。実際、スワミーは本当に思い出した後すぐに、亡くなりました。

先ほど言ったように、ヴィヴェーカーナンダ青年は、神が本当に存在するかどうかという疑いを持ち、宗教の指導者に会うたびに本当に神様に会った

ことがあるかどうか尋ねていましたが、彼の疑いは結局は、靈的实践によって解決しました。このように、神について疑いを持つことは当たり前のことなので、私たちはスワームージーに共感することができます。そしてもし私たち自身の疑いについて解決したければ、私たちも懸命に靈的实践をしなければなりません。

求道者としてのスワームージー

神の化身とその本性のことはしばらく脇に置いて、彼らが靈的求道者であるという点に着目しましょう。シュリー・ラーマクリシュナも神について調べました。彼は神や女神の物語を聞きました。神を信じていたし、ドッキネッショルのカーリー寺院の神職になりましたが、彼は神が本当に存在するか、もしくは単なる迷信なのか、ただの像なのか、心の想像にすぎないのか、という神の事実を自分で確かめたいと思いました。彼はその質問と答えを、科学の探究者のように追求しました。彼は三つの疑問を抱いていました。神は存在するか、もし存在するなら神の本性は何か、他の宗教の神々は同じものなのか、という質問です。シュリー・ラーマクリシュナはこの三つの疑いを晴らしたかったのです。このことを追求するために、彼は苛烈で厳しい靈的实践を十二年間も行い、やっと答えを得ました。

スワームージーも神への信仰心を持っていましたが、西洋の宗教と哲学を学んだことで、神の存在に対する疑問を抱き始めました。神が存在するかどうか、だけでなく、神が本当に存在するのならその存在を知ることはできるのか、ということも疑問でした。この二点が、スワームージーが直面し答えを探し求めた質問の主要ポイントです。スワームージーは宗教と哲学を学びましたが、神を直接経験した人から答えを聞きたいと思いました。そこでスワームージーは靈的实践と靈的知識で有名な数名の指導者にそのことを尋ねました。しかし、スワームージーはどの返答にも満足しませんでした。なぜなら誰も「はい、私は神を見ました。神を知ることはできます」と答えなかったからです。しかし、最後に、シュリー・ラーマクリシュナだけがはっきりと率直な言葉で「ああ、神様はおられるよ！ 私はお前に神を見せることもできる」と言いました。

ひとつ話をしましょう。

ある時、王様が聖者に三つの質問をしました。「神は存在しますか？ もし存在するのなら、その存在の証拠は何ですか？ どうすれば神を見ることができるのでしょうか？」

聖者は「すみませんが牛乳を一杯い

ただけませんか？」と言いました。牛乳が届くと聖者は尋ねました。「王様、この牛乳の中にバターが見えますか？」

王様「見えません」

聖者「ではこの牛乳の中にバターがないとおっしゃるのですか？」

王様「いいえ、バターはあります」

聖者「ではなぜバターは見えないのでしょうか？」



王様「バターを作るには、まず、牛乳を少し温めて、それから少し冷ます。それからヨーグルトを加えてしばらく放置します。最後にかき混ぜて凝乳と乳清にしなければなりません」

聖者は言いました。「神様は遍在ですが私たちには見えません。それは私たちが必要な手順を踏んでいないからです。もし神を見たければ、やるべき手順があります。その手順とは霊的实践です。

手順は三つの部分からなります。一つ目は、神に集中するという実践。二つ目はこの世に対する執着の放棄。三つ目は、心と感覚のコントロールです。もしこの三つの実践をすれば、神を見ます」

切望と決意が大事

そして、シュリー・ラーマクリシュナが、「ああ、神を見たよ。お前にも見せることもできる」と言ったとき、話はそれで終わりではありませんでした。シュリー・ラーマクリシュナはやらなければならないことがある、とも言ったのです。『ラーマクリシュナの福音』の中で、スワームージーがシュリー・ラーマクリシュナからこの訓示 [三] を受ける箇所を読んでください、私たち霊性探究者と、スワームージーという霊性探究者はどこが違うのでしょうか？ もう一度言います。シュリー・ラーマクリシュナはスワームージーに三つの指示を与えました。スワームージーはそれを実践し神を悟りました。私達も『福音』を読んだり、講義に参加しているのでその答えを知っています。ではなぜ私たちは神を悟らないのですか？スワームー・ヴィヴェーカーナンダと私たち霊性探究者とは何が違うのでしょうか？

信者の答え：「彼は特別だったと思います」

そうですね。ヴィヴェーカーナンダは誰とも比べ物にならないほどの人格が際立っていましたし、私たちとは霊性の高さが違います。他にもシュリー・ラーマクリシュナには出家直弟子がいました…。彼らは皆、神を悟りました。では、七聖賢の一人の化身として、スワミー・ヴィヴェーカーナンダは何が特別だったのでしょうか？

信者の答え：「スワミージーはシュリー・ラーマクリシュナの祝福を受けたと思います」

そうですね。スワミー・ヴィヴェーカーナンダは霊的に祝福された方であるという事は言えますが、ラトゥ・マハーラージなど他の方々も祝福を受けましたよ。シュリー・ラーマクリシュナとヴィヴェーカーナンダのお二方が言ったことは、弟子に対して神のヴィジョンを見せること以外なら何でもしてやれる、神のヴィジョンは独力で実践をして獲得しなければならない、ということです。だからシュリー・ラーマクリシュナはドッキネッショルに滞在している若い信者たちに真夜中に「起きなさい！ お前たちはここに寝るために来たのかね？ パンチャヴァティに行って瞑想しておいで！」と起こしたのです。霊性の修行は皆にとって必要なことだということが分かりますね。パンチャヴァティにはエアコ

ンもストーブもなかったし、蚊がいっぱいいるのに虫よけもなかったのですよ。シュリー・ラーマクリシュナはこの弟子たちをととても愛していました。師の祝福だけで十分なら、どうして霊性の修行という厳しい試練をやり遂げよ、と弟子たちに言ったのでしょうか？

シュリー・ラーマクリシュナは確実に霊性を与える力があつたのに、若者たちを夜中に起こして、神意識を確立させるために、霊的实践をさせようとパンチャヴァティに行かせました。『ラーマクリシュナの福音』から短い話を引用しますが、それで霊的实践に関する私たちの立場が分かるでしょう。

ある妻が夫に言った「ごらんなさい！ あの人は放棄を実践していますよ！」

夫「どうやって？」

妻「彼は十六人の妻がいるのですが、それを一人ずつ捨てているのです」

夫「彼に本当の放棄はできないよ」

「それでもあなたよりましです。あなたはほんの少しの間だけでも私から離れようとしらないではないですか」と妻は食い下がった。

恐妻家の夫は言い返した。「いや、彼に放棄はできないが私にはできる。では、行くぞ」 男は沐浴に行くつもりで準備していたタオルを肩にかけたまま出かけた。家庭も家も捨てて、二度と戻ることはなかった。

つまり、強い決意と霊的实践への不屈の態度が求められるのです。これこれは自分の霊的生活に有害である、もしくは、この執着は自分の霊的生活の障害である、ということが分かったら、直ちにそれを放棄する準備が必要です。これこそが、私たち凡庸な霊性の求道者と、シュリー・ラーマクリシュナの直弟子のような霊性の求道者との違いです。神を悟るといふ強い衝動と決意を持っていない限り、神を悟る方法を知っていても、悟ることはできません。この熱望と決意こそが必要なことなのです。私たちに足りないのは、この渴望と決意です。私たちは悟るための方法を知っているけれども、渴望と決意が欠けているのです。

スワームージーのことを考えてください。彼は、家族も、弁護士になるという前途も、快適さも、執着も、全てを放棄しました。スワームージーがもし在家の生活を送ったとしても絶対に輝いていたはずですが、それらのすべてを放棄しました。彼の人生のたった一つの目的は、シュリー・ラーマクリシュナの教えを世界に伝えるために、

神を悟ることでした。覚えておかななくてはいけないことは、非常に快適な暮らし、ある人間関係、ある執着、嗜好や習慣、を放棄する覚悟がない限り、また、すべてを犠牲にしてこれらを変革させる覚悟がない限り、霊的な目標に達するのは非常に困難だということです。

真実の観察

今日のテーマは「スワームイー・ヴィヴェーカーナンダの真理への熱意」です。それを別の視点から例をあげると、スワームージーは菜食主義者ではなく、肉や魚を食べていました。インドでは多くが菜食主義者で、非菜食を食べることは霊的生活に有害である、と考えられています。多くの人は、特に僧侶が非菜食を食べることなど想像もできませんでした。にもかかわらず、スワームージーが遍歴僧としてインドを縦横に行脚しているときにたくさんの人に食習慣を尋ねられても、スワームージーは包み隠さず、私は出されたものは何でも食べます、と言いました。人々がこのことを批判しても、スワームージーは、この真実を決して隠しませんでした。どんな結果も恐れず、ただ真実を話したのです。

スワームージーを尊敬する菜食主義者の中には、自分自身は厳格な菜食主義者だがスワームージーが何を食べよ

うと気にしない人びともいました。スワミーの一番大切な部分は霊性の高さなので、食習慣など気にせず、スワミーを称賛し尊敬し愛したのです。しかし、別のタイプのスワミーを尊敬する肉食主義者もいました。スワミーが肉や魚を食べること以外は全て好きだが、ただ一点、スワミーが肉や魚を食べただけが好きになれない、と考えたのです。このように二種類のスワミーを尊敬する人びとがいましたが、スワミーは真実を話し、このことに関する彼らの感情を気にしませんでした。

普遍的真理の教え

スワミーは真実を語るために西洋に行きました。ヒンドゥ教を広めるためではなく、普遍的真理を説くために行ったのです。このことはスワミーと西洋の他の宗教指導者たちとの大きな違いです。例えば、スワミーは、さまざまな宗教があるが、全ての宗教は同じ目標、同じ神へと導く、と言いました。一方で、西洋の宗教指導者たちは、第一に、キリスト教だけが唯一の真の宗教である、第二に、主イエスを救世主として受け入れる者だけが天国に行けるがそれ以外の者は地獄に行く運命だ、と宣言します。それに対してスワミーは言いました。否、全ての宗教が偉大な聖者を輩

出した、キリスト教やヒンドゥ教だけでなく、あらゆる宗教が聖者を輩出した、[だから全ての宗教が正しい]と。第三に、キリスト教徒はキリスト教の教義を受け入れて議論をしてはいけない、と言いますが、それに対してスワミーは言いました。否、宗教には理性主義的な場があるが、ある段階で宗教は論理を越えなければならない、しかし論理と矛盾してはならない、と。第四に、西洋の指導者たちは、私たちは皆罪びとである、と言いました。しかしスワミーは言いました。否、自分は罪びとである、ということが罪なのである！人間の本性は純粹なことから、と。これらがスワミーの教えと西洋のキリスト教指導者の教えとの主な矛盾点です。

スワミーがこれらの考えを説いたとき、西洋の多くの聖職者、教会の指導者、さらには多くの会衆も怒りました。新たにスワミーを尊敬するようになった西洋の人々は心配して言いました、スワミー、あの人たちはあなたの人生に危険を及ぼしかねません、だからどうか関わらないでください、と。スワミーを黙らせることが神への仕事である、と信じる過激派がいても、スワミーは落ち着いて主張しました。「私は死を恐れない、私は神の御足に触れたのだから」 スワミーは続けました。「彼らが何を殺そうというのだ？ 肉

体に過ぎないではないか。私はアトマンである。アトマンを殺すことなどできない」これがスワミーのこの問題に対する態度でした。真実に妥協はありません。真実が一番大切なもので、最後に勝利するのは真実です。

最後に

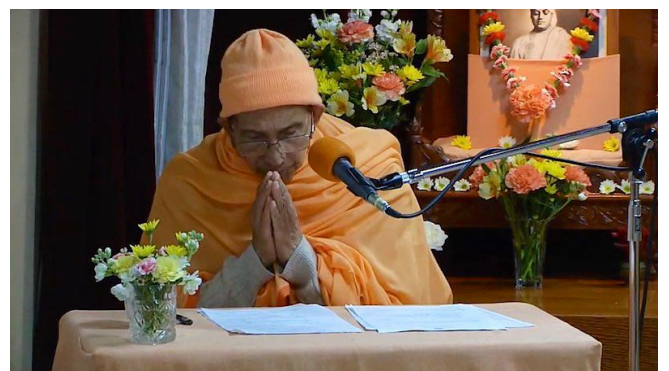
最後に簡単な逸話をお話しして終わりにします。スワミー・ヴィヴェーカーナンダが西洋に滞在中は、関係者の招待を受けて諸所で講義をしていたので決まった住居はありませんでした。時にはスワミーのために宿泊場所を緊急で準備することもありました。

そんなある時、女学校の有能な監督官が学校の講堂で講義をするように、スワミーを招き、宿泊場所として学校の寮（ドミトリー）を用意しました。この珍しいイベントに自分たちも参加できるので、生徒たちはとてもワクワクしました。その監督官は宗教哲学にたいそう興味を抱いていたので、地元の学者や基督教の聖職者も招待していました。夕方になると、会話は基督教とその信仰と実践に移りました。

出席している聖職者たちは、多くの学究的に考察された書物や聖書を引用して、基督教徒の信仰だけが真の

信仰であると主張しました。しかし、スワミーは、確かに基督教は真実であるがそれは唯一の真の宗教ではなく、それぞれの宗教が同じ神へと導く、と言いました。会話は、聖職者とスワミーが互いに基督教の学究的書物や聖書を引用しつつ何度も交わされましたが、最終的には、スワミーが普遍的真理を決定的に明確化することで、全ての反論を打ち負かしたのです。

後になって、その場にいた少女の一人がその日の回想録を次のように記しました。私にはスワミーが全ての聖職者の論旨を打破した、ということが分かりました。私は基督教徒ですが、その議論を聞いていて、時間の経過とともに幸せを感じた、ということ覚えています。講堂は自由主義的雰囲気にも包まれ、皆が大きな影響を受け、多くは宗教宗派にかかわらず真理は普遍的である、という真理を受け入れました。



[一]『スワミー・ヴィヴェーカーナンダの生涯』 p 49 参照

[二]『スワミー・ヴィヴェーカー

ナンダの生涯』 p 348 参照

[三]『ラーマクリシュナの福音』序論の p (108) 参照

[四]「ラーマクリシュナの福音」p393, 798 参照

スワミー・ヴィヴェーカーナンダ 生誕祝賀会

日本ヴェーダーンタ協会逗子協会

2022年2月20日 逗子本館にて

スケジュール

06:00 マンガラ・アーラティ 聖句
詠唱、賛歌朗誦

06:30 瞑想

07:45 朝食

午前の部

11:00 プージャ (礼拝)、食物奉獻、
アーラティ、花奉獻

12:30 ランチ・プラサード (本館に
て)

午後の部

14:45 聖句詠唱

賛歌: スワミー・ディッヴィヤー
ナターナンダジー

輪読 「スワミー・ヴィヴェーカー
ナンダの生涯 (日本語)」

講義 「スワミー・ヴィヴェーカー
ナンダの真理への熱意」

スワミー・メーダサーナンダジ
ー

翻訳者: レオナルド・アルヴァレ
スさん

賛歌

瞑想

16:30 ティータイム (本館にて)

18:00 アーラティ、賛歌朗誦、輪読、
瞑想

20:00 夕食





忘れられない物語

「スワミー・ヨーガナンダジー」

シュリー・ラーマクリシュナの生誕祭を始めて盛大に開催したのは、スワミー・ヨーガナンダ（ヨーギン・マハーラージ）だった。生誕祭はドッキネッションで執り行われた。大きな困難をはねのけて祝賀会が成功したのは、

スワミー・ヨーガナンダの人々、とりわけ若者に対する、多大な影響力のおかげである。1897年にスワミー・ヴィヴェーカーナンダがアメリカから凱旋した際に催された大歓迎会の時にも、スワミー・ヨーガナンダの組織力は立証された。スワミー・ヨーガナンダはその陰の立役者だったのである。

インドに戻ったスワミー・ヴィヴェーカーナンダが兄弟弟子たちに組織を始めようと提案したとき、スワミー・ヨーガナンダはそれに反対した。彼の主張はこうだ。シュリー・ラーマクリシュナは、皆の時間とエネルギーをひたすら霊的实践に捧げることを望んでおられた。しかしヴィヴェーカーナンダは師の教えから逸れ、独自の構想で組織を発足しようとしている。それに憤慨したヴィヴェーカーナンダは切々と訴えた。私（ヴィヴェーカーナンダ自身）はあの霊的巨人であるシュリー・ラーマクリシュナの教えに手を加えるには、あまりにちっぽけな人間だ。もしシュリー・ラーマクリシュナがお望みなら、一握りの塵から数百のヴィヴェーカーナンダをお創りになれたが、師はスワミー・ヴィヴェーカーナンダを彼の使命を果たす道具としてのみお創りになられた。それだからスワミー・ヴィヴェーカーナンダは、師の意志以外のいかなる意志も持ち得ないのだ、と。シュリー・ラーマクリ

シュナに対するスワミー・ヴィヴェーカーナンダのこのような驚嘆すべき信仰に、その場にいた者は皆啞然とし、即座にスワミー・ヨーガナンダの心も掴んだ。

ラーマクリシュナ・ミッションが実際に発足した時、スワミー・ヨーガナンダは役員の一人名になった。スワミー・ヨーガナンダはスワミージーを深く深く愛していたにもかかわらず、独自の判断力と大いなる批判的精神を発揮して真の指導者スワミー・ヴィヴェーカーナンダに異議を唱えたのはこの時だけではなかった。確かに彼は、自らのグル（シュリー・ラーマクリシュナ）を完全に受け入れるまでは、厳しい目でその行いを見極めてきたので、グルバイ（兄弟弟子）のことも大目に見ることはできなかつたのだ。だから、スワミー・ヴィヴェーカーナンダと意見が食い違ったとき、スワミー・ヨーガナンダはあくまでも真っ正直にそのことを伝えた。

<https://www.sriramakrishna.in/2018/02/01/swami-yogananda/> より引用

今月の思想

終わったことにめそめそするな。 起
こったことには、にこやかであれ。
…ドクター・スース

発行：日本ヴェーダーンタ協会
249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1
Tel: 046-873-0428
Fax: 046-873-0592
Website: <http://www.vedanta.jp>
Email: info@vedanta.jp